

蕨市多文化共生推進市民懇談会（第1回） 議事録

日時	令和6年9月25日（水曜日） 開会：午後1時30分 閉会：午後3時30分
会場	蕨市役所 5階 委員会室
出席	市民懇談会委員 林大樹、植田富美子、上野梢、荒井紀子、阿部恒男、石村宗侑、 長谷川浩司、藤田明、謝冬英、床次泰文、白川ありさ 各委員 事務局（課長・倉石、主査・長谷川、外国人相談員・水谷）
資料	令和6年度蕨市多文化共生推進市民懇談会第1回資料 資料1：蕨市多文化共生推進市民懇談会委員 資料2：蕨市多文化共生推進市民懇談会設置要綱 資料3：蕨市多文化共生推進市民懇談会の傍聴に係る取り決め 資料4：蕨市多文化共生指針について 資料5：蕨市多文化共生指針に基づく取り組みと課題について 資料6：『わらびらいふ』2024年9月 Vol. 5

1. 開会（公開・傍聴希望者なし）

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ

4. 委員の紹介

5. 会長・副会長の選出

6. 議題

（1）蕨市多文化共生指針について

蕨市多文化共生指針について事務局から説明。

【質疑応答】

（委員）蕨市の外国人住民数について、今回、資料8ページ9,246人で、これまでにない増加数です。これには理由や背景などがあったのでしょうか。

（事務局）東京に近く、比較的家賃が安いという住みやすさが大きな理由ではないかと思われます。また、塚越・南町にたくさんの中国の方がいるので、その友人を頼って来る方も多いというのが、事務局の推察となっています。

（委員）そのような事で増加するのは納得します。これまでにないような右肩上がりなので、何か特別な事があったのではないかと思います。

（事務局）他には、ネパールの方の在住者の伸びが著しいなど、特定技能で入国し、働

く事を目的に来る方が増加しているようです。そのような働き盛りの人が、東京に近く、家賃が安いなどの理由で伸びているかと思われます。

(2) 蕨市多文化共生指針に基づく取り組みと課題について

蕨市多文化共生指針に基づく取り組みと課題について、事務局から説明。

【質疑応答】

(委 員) 地域活性化とグローバル化の対応における多言語案内についてはどうですか。

(委 員) 商店街の経営者からは多言語案内の声があります。外国人居住者が増えています。市内事業所登録数も増えています。そう言った意味では、お互いに上手く行き来が出来ると、地域経済的にも非常に効果的と考えており、取り組んで欲しいと思います。

(委 員) 『わらびらいふ』をご覧になったことはありますか。外国の方は読んでいるのでしょうか。

(委 員) ごみ出しの特集など良い取り組みだと思います。

(委 員) 非常に役に立つと思います。

(委 員) 住民の方は、町会や地域と一体となって協力的です。ごみ当番なども行っており、共生して良いと思いますが、ごみの問題では車で来て、ごみを捨てるのを何度も見ております。

(委 員) 生活の中で困っている方、子育て困っている方など、一カ所に集めて相談に来て下さい。という形では、なかなか難しいと思います。有効な方法は、情報を発信する、現場に見に行くことだと思います。つまり、人が集まる場所に行く。例えば、保育園の会合などで集まった時に、こちら側から出向き、「何か保育で困っていることがありますか」と質問するのが、人数的には少ないかも知れませんが、より効果的だと思います。

(委 員) 生活ガイドブックは中国語で見たことがあります。情報が沢山あり、一度読んだだけでは分かりません。また、中国語で書いてあっても、不明な点がありました。私は、日本語ボランティア教室に何回か参加したことがあります。理解できない箇所をボランティアの方が工夫し、参加している外国の方に説明を加えるのが良いと思います。

(委 員) 市のホームページで生活ガイドブックを見ると、ひととおりの事は書いてありますが、内容がわかりません。必要な情報にもう一步踏み込みたい時、どのような対応ができるのか。そんなコンテンツづくりが必要だと思います。

(事務局) 確かに、生活ガイドブックだけでは理解しにくい点があるかと思いますが。それを想定し、医療や福祉などの分野に対し、二次元コードを付けてあり、分

からない場合は、そこへ詳細内容を記載しています。また、それ以外にも生活していく上で分からないことが多くあると思いますので、日本語ボランティア教室で生活オリエンテーションを通じ、税金についてなど丁寧に説明し、日常生活における不安の解消や、各種行政制度の理解を促進したいと思います。

(委員) 災害時外国人支援ボランティア育成は、具体的にどのような事が進んでいるのか、或いは取り組まれていないのか、お答え下さい。

(事務局) まだ検討中ですが、町会に登録している外国人の方が少ないのが現状のようですので、まずは、町会の加入を増やしながら、災害時外国人支援ボランティアの育成につなげていければと思います。

(委員) 外国人住民を支援する日本人住民ボランティアではいけないのですか。

(事務局) 日本人住民で外国語の堪能な方が、外国人支援ボランティアであっても良いと思いますので、今後、そうしたボランティアの方達にアプローチしてみたいと思います。

(委員) 言葉の堪能な方や、近くで外国の方が住んでいて言葉が分れば、その方をお願いするなどもあります。お願いするだけでなく、日頃のコミュニケーションが大事だと思います。

(委員) 町会で、何人がどこの国なのかを分類をしてもらえると、支援ができると思います。自分の周りに何人かいるのが分かれば、日頃から気に掛けたり、話し掛けたりできます。

(委員) 一人ひとりがどこに住んでいるのか、蕨市では分かるでしょうか。

(事務局) 当課では国ごとの人数を集計していませんが、外国人住民は、南町地区と塚越地区が多いと記憶しています。

(委員) 町会に加入していない方が多く、加入していないと分かりません。中国で加入している方は、お祭りや盆踊りなど、一緒に手伝ってくれる人がいます。

(委員) 市は、外国の方が全体でどれだけ町会に加入しているか分かりますか。

(委員) 担当部署は、町会の名簿を把握しているので、どれだけ加入しているかを把握していると思います。

(委員) 町会加入者は町会費を払い、どこに住んでいるなどが分かります。皆さん協力的です。また、ワンルームマンションがかなりあり、そこにはどのような方が住んでいるのか、個人情報などもあり分かりません。

(委員) ごみ問題もそうです。町会に加入している方は、きれいにしており、ごみの当番もやっています。加入していない方は分かりません。

(委員) 班長などは町会の説明をし、お祭りがあるなどの行事も伝えます。しかしアパートまでは手が届かないのが現状です。

(委員) 町会に加入すると、中国語などのごみのパンフレットを渡します。加入してもらうように、各々町会長は進めたほうがいいと思います。

(事務局) 外国人の割合としては中国の方が多いです。その中でも永住者が多いので、そのような方は、町会に入る可能性が高いと思います。一方、ベトナムやネパールの方が増えていますが、在留資格が特定技能で働きに来ているようで、働く目的で来た方は、地域の帰属意識がどの程度あるのかにより、町会加入につながるかと思います。地域に興味を持つために、どのようにしたらいいのか、検討しなければならないと考えています。

(委員) 永住者などの人数は分かるのでしょうか。

(事務局) 担当部署であれば分かりますが、当課で現状値は把握しておりません。

(委員) 出生時に両親の国籍が違くと国籍を選ぶことができると思うのですが、どのようにして決めるのでしょうか。

(事務局) 国籍の決定は、各国における憲法や国籍法により要件を規定しておりますが、統一した国籍立法が無いため、両親それぞれの国の大使館に問い合わせをしてもらうよう担当部署より案内しているそうです。

(委員) 外国もそうですが日本は人口が減少しています。可能であれば、日本国籍を取得して欲しいと思っています。

(3) 各団体等からの多文化共生に関わる意見・令和5年度取り組み等について
各団体等からの多文化共生に関わる意見などについて、事務局から説明。

【質疑応答】

(委員) リンデンと46年の交流と歴史があります。ドイツでは移民・難民問題があります。リンデンは、フランクフルトから1時間程で静かな町です。そこにも難民がいます。

(委員) 蕨エルドラド姉妹都市協会です。私は、国際交流の事に関心があります。昨日は「みんなの広場」の会議がありました。私が残念に思うのは、外国の方が、参加しても同じ方が翌年は参加しない事です。続けて参加してもらえば、コミュニティの中で人を介して情報が伝わり参加者が増えると思います。

(委員) 町会は、それぞれ特色があり地域性があります。良いこともたくさんやっています。それが伝わっていません。町会の様子が分かると、協力者も次世代の人も出てくると思います。

- (委員) 蕨市公衆衛生推進協議会の理事会でごみ問題が一番です。永住者の方は、たいてい日本語が話せます。パンフレットなどを渡して説明したほうが良いでしょう。アパートやマンションの方には不動産会社に話してください。
- (委員) 今年、文化協会は文化際での催し物をしました。多言語で町会掲示板に掲載しました。しかし、チラシが小さかったためか、通り過ぎても分からなく、見る人もあまりいなかったようで、外国の方の参加は少なかったです。次回、分かりやすく大きく掲載し、言葉がわからなくても、歌や踊りなどを見て日本の文化が分かるように、生涯学習スポーツ課にお願いしたいと思います。
- (委員) 観点が違うかもしれませんが、俗に言う「郷に入っては郷に従え」のことわざがあります。どんどん外国の方が増えています。逆に来る外国の方から、我々が何か学ぶ事があるのではないのでしょうか。
- (委員) 「みんなの広場」というものを知りませんでした。どうやったら参加できるか、情報はどこから手に入れるか、誰が参加できるのでしょうか。
- (事務局) 参加のあり方が二通りあります。1つは「みんなの広場」の実行委員会があり、イベントの企画から参加できます。人員の募集は、広報紙のお知らせに掲げています。もう一つの参加は、イベントに参加する方法です。イベントを実施するときはポスターやチラシを HP や各公共施設に配架し、周知に努めていますので、ご覧いただき、参加していただきたいと考えています。
- (委員) 「みんなの広場」は、第一回時に名前がなくてはじまりました。その時、参加した外国の方が英語で名前を付けました。日本語で「みんなの広場」です。
- (委員) 「みんなの広場」の委員募集時は、日本語ボランティア教室などでパンフレットなどありましたか。
- (委員) あった方がいいと思います。関係者は「みんなの広場」が分かりますが、「分からない」と言った声があります。
- (事務局) 実行委員会で「みんなの広場」が伝わりにくいという意見があり、「みんなの広場」は残し、サブタイトルで多文化共生事業とするなど、どのようなイベントなのか分かりやすく説明していきたいと思います。
- (委員) 市のイベントや町会の行事などの機会があれば、ご案内してもらいたいです。
- (委員) やはり繋げていかなければならないので、情報発信をするような事をするべきだと思います。
- (委員) 私が住んでいるところはアパートで、大家さんを通してですが、ごみ出しで乱れていることはありません。みんな守っています。
- (委員) 日本語ボランティア教室をやっていて感じる事は、ボランティア教室の講師にも課題があると思います。ボランティア講師は、どこも高齢者が多いです。

高齢者の中でも70代が多く、後継者を育てるのが大事です。その為、中央公民館で年一回日本語ボランティア養成講座を開催していますが、その講座に参加する方も高齢者です。世代交代が上手くいきません。

(委員) 事務局でキーパーソン発掘は難しいと説明がありましたが、以前に話された食のイベントの進展や考えなどは、その後どうになりましたか。

(事務局) 食のイベントは、「みんなの広場」での実施を考えていました。カレーや中国料理、韓国料理など色々な店が蕨市にあるので、そういった店員の参加を実行委員会で提案しましたが、検討の結果、実行委員で料理を作って提供する事に決定されました。

(委員) 食のイベントは集客があって年々集客が増えています。プロの方で登録する各国の経営者がいます。食を通じてイベントを行い、プロの指導を受けながら、一般の方と一緒に料理を提供します。それにより、中心的な人物が出てきそうな気がします。また、集客で一体感が出ると思います。そういう形で、お互いの顔が見えてくると、色々なごみ問題の解決へ繋がっていくのではないのでしょうか。「みんなの広場」も上手く形を変えながら、いい方向に持っていくと良いと思います。

(4) その他

(事務局) 資料に『わらびらいふ』を掲載しています。多言語での蕨市防災情報システムの紹介があります。登録を是非勧めて欲しいです。併せて、防災訓練の参加を促す特集になっています。次回の蕨市多文化共生推進市民懇談会予定は、3月の開催を予定しています。本日はありがとうございました。

3. 閉会